

長大祭2015

医学部生も参加した長大祭!!
参加されている皆さんを取材させていただきました!!



屋台

学園祭といえば、やはり屋台!!いくつかの部活の皆さんが出店されていました。ポップコーンやはしまき、フランクフルトのような定番のものや、ハリケーンポテトなど聞いただけではわからないユニークなものまで商品として扱っていました。



バド部の一年生たち



訪問販売する硬テ部



焼き鳥を焼く軟テ部



?ポーズの剣道部

軽音LIVE

会場のあるものは足でリズムをとり、あるものは手や体を振り感情の高ぶりを示す。そしてあるものはその高ぶりでステージにあがる。それをステージ上のバンドマン達が先導する。彼らはいっしょかーつになり、最高の時間を過ごした。



ジャグリング

正門をくぐってすぐのロータリーで、子供たちだけでなく、大人までも足をとめてしまう魔法のような技を繰り出していた。何が驚くべきかわからないが、驚くべきことが目の前でおこっていた。



キャンドル点灯会

日が沈み夜風も寒くなってきた頃、大学の隅であたたかい光を見つけた。たくさんの医学部美術部お手製のキャンドル達。見とれて時を忘れて眺めていた人も少なからずいたであろう。



西医体男子バレー部準優勝



この結果を残すまで全てが順調にいったわけてありませんでした。九山前に神戸にて行われた大会では一点の重さに泣き得点差で予選リーグで敗退を悔しい思いをしましたし、西医前の練習試合でも自分たちのやりたいプレーができず負けることもありチームとしてもモヤモヤし、辛い時期もありました。しかし、そんな時でもチームみんなが大会に向けて同じ方向を向き真摯にプレーに取り組んだおかげで長大らしいプレーをすることができたような成績を残すことができました。実は長大は西日本の中でも一番と言っているほど声を出し一点一点を喜ぶチームです。それは練習の時から意識しており、学年問わずチーム

今年の夏に大阪で行われた西医体男子バレー部は準優勝することができました。春に行われた九山優勝から引き続き結果を残すことができ大変嬉しく思います。



医学部救急医療系サークルFLANが全日本医学生CPR選手権大会、第3位!!!

去る10月17日(土曜)、「第1回全日本医学生CPR選手権大会」にて、我が長崎大学FLANが第3位という好成績を残しました!本大会は、全国の医学部学生の心肺蘇生技能向上を目的に、日本救急学会主催で今年からスタートした大会です。1チーム5名で、胸骨圧迫+人工呼吸の手法で争います。評価は人ではなく、機械によって客観的に行われます。試合は、3ゲームあり、1名・1名・3名に分かれ、それぞれ2分・2分・10分間の演技を行います。8月、全国6カ所にて各ブロック予選が行われ、長崎大学FLANを含む、上位15校が決勝戦へコマを進めました。胸骨圧迫はやつたことのある人なら分かると思いますが、実はかなりの体力を使わなければならないのです。2分間はかなり気が遠くなります。FLANは見事なパフォーマンスとチームワークで見事な第3位となりました!同じ大学医学部に所属する



第10回定期演奏会を終えて

Nagasaki University Medical Chamber Orchestra

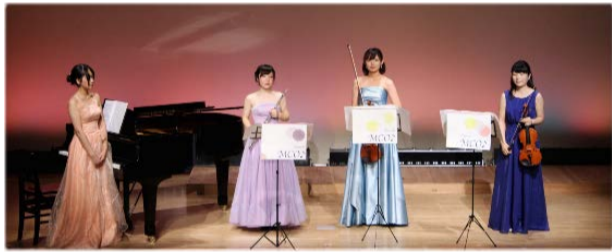


長崎大学医学部室内合奏団は2006年に創部されて以来、これまで県内の各地の病院や老人施設、各種イベントなどで演奏会を行ってきました。毎年11月に行われる定期演奏会は、今年で第10回という記念すべき節目の年を迎えました。今回の記事では、『第10回定期演奏会』について当日の様子をお伝えしたいと思います。

『第10回定期演奏会』は11月7日にメルカ築町ホールにて執り行われ、演奏会当日はおよそ260名のおお客様にご来場いただきました。このことは事前に用意していた座席が足りなくなってしまうという嬉しいハプニングでもありました。



受付は2年生が中心となって自分たちで行いました。開演前、どのくらいのお客さんに来ていただけるかそわそわしています。笑



今年の演奏会から、曲目にはクラシックだけでなく映画音楽などお客様に馴染みの深い曲も取り入れられました。また、衣装も曲にあった色・デザインのドレスで演奏を行い、聴いても見ても楽しめる演奏会になるように工夫しました。



文責：松本 学
こんにちは。学友会広報部の松本です。

今回は僕の所属する部活でもある長崎大学医学部室内合奏団の「第10回定期演奏会」の様子についてお伝えさせていただきます。



室内合奏団の演奏会では、オーケストラとは異なり、総勢約50名の部員の中から、色々なアンサンブルを組み、バロック音楽～映画音楽まで幅広いジャンルの音楽を演奏します。

写真はヴィヴァルディ「四季」より「冬」の演奏中の一枚です。violin solo は3名の部員が1楽章ごと演奏し、それぞれの個性や音色の違いも楽しめるものとなりました。



卒団される卒業生の先輩方へ花束の贈呈です。今まで室内合奏団を引っ張っていただき本当にありがとうございました。



今年で卒団となる卒業生の先輩方にも数多く出演していただきました。最後までお世話になった先輩方と一緒に演奏することができ、大変嬉しく思っています。



演奏会の最後には、全部員による全体合奏を行いました。曲は第10回の定期演奏会を迎えることができたことに感謝の意味をこめてエルガーの「威風堂々」を演奏しました。

第10回定期演奏会を開催するにあたり、とても多くの方のご協力を賜りました。ここにお礼申し上げます。

これからもたくさんの方に幸せな音楽が届けるよう頑張ります!!

～定期演奏会を終えて～



2015年11月7日に第10回定期演奏会を開催しました。室内合奏団にとって、年に1度のビッグイベントであり、今年は記念すべき10回目の演奏会ということで、懸ける想いにも大きなものがありました。今年は難曲「威風堂々」に挑戦してみたり、ドレスやおそろいの衣装を用意してみたり、学部内で宣伝コンサートを行ってみたりと、いろいろ新しいことにも挑戦しました。本番はありがたいことに、席が溢れるほどのお客様にご来場いただき、あまりの嬉しさと緊張で泣きそうになりました!本当にありがとうございました。これからも室内合奏団は長崎の皆様に愛される存在になれるよう、がんばっていくので応援よろしくお願いします!!

医学部室内楽部 部長 淵野萌子

軟式テニス男子

4年生 宮崎修平



ソフトテニス部です!今年度の西医体は3位という結果でしたが、OBOGの先生方をはじめとするたくさんの方の支えがあったからこそ、3位という結果もぎ取ることができました。チームはまだまだ発展途上。これからも精進していきます!

フットサル女子

3年 田中希実



3月の九州では準優勝だったのでオールメダルでは優勝を狙っていましたが、結果は4位でした。しかし、チーム全員が団結して勝ち取った4位なので満足しています。団結力はどのチームにも負けていなかったと思います。またこのチームでキャプテンできたことが私の誇りです。医学部フットサル部が今後も活躍できるようにチーム一丸となって練習に励んでいきたいです。

水泳部

男子 3年 白髭知之



長崎大学医学部水泳部主将の白髭知之です。先日大阪のみはやプールにて行われた西医体では男子400mメドレーで優勝を果たし、総合では男女共に6位という結果を残すことができました。連覇の夢は叶いませんでしたが、多くの部員が自己ベストを更新でき、良い大会になったと思います。応援してくださいありがとうございました。これからも応援のほど、よろしくお願い致します。

女子 2年 千代島希



私たち水泳部は、夏の大会に向け練習を重ねていました。今回、ベスト8入りという功績を残すことができ、嬉しく思っています。個人個人がそれぞれが大会に対してのベストを尽くせたのだと考えています。次の大会に向けて気持ちを一新し、また頑張っていきます。

剣道男子

4年 鈴木文隆



我々剣道部は男子団体が2年ぶりの優勝、女子団体がベスト8という結果をおさめることが出来ました。日頃より先生方からご指導を賜り一層の技術の向上ができた他、普段の稽古から部員同士でお互いに切磋琢磨して行けたことが今回の結果につながったと思います。今後とも先生方におかれましては変わらずのご指導ご支援どうぞよろしくお願い致します。

硬式テニス男子

4年 塚本康二



今年の西医体では、去年に引き続きベスト8という結果でした。来年こそは、新主将の木下のもと、悲願の西医体優勝、そして九州3連覇を成し遂げてくれると信じています。多くの方にご支援をいただき、大変幸せな1年間でした。ありがとうございました。これからも硬式テニス部をよろしくお願いします。

卓球男子

4年 大内田 良真



今回の西医体は1年生も含めて新メンバーでの戦いとなり気合い十分で挑みました。不安もありましたが後輩の活躍があり、応援も味方につけ善戦できたと思います。みなやる気に満ち溢れているので来年はさらに成長し良い結果を残したいです。

バレー男子

4年 野本和宏



今年の夏に大阪で行われました西医体で男子バレー部は準優勝することができました。一丸となったこのチームで一試合でも多く戦い続けることができ、準優勝という結果を残せて大変嬉しく思います。OBOGの先生方からいただいた多くの応援本当にありがとうございました。

柔道女子

4年 坂山朋子



全医体は井上康生をはじめとする数々のオリンピック選手を輩出したことで有名な東海大学で行われました。OBの先生方、部員をはじめとする応援してくださったすべての方に大変感謝しています。医学部柔道部では、経験者、初心者問わず部員募集中ですので、柔道に興味がある方は是非声をかけてください。

弓道女子

3年 村山真由子



こんにちは!弓道女子を代表しまして村山です!今年の西医は9位と、惜しくも入賞することができませんでした。しかし、着実に力がついてきていることを実感できました!来年はこの結果に満足することなく、さらに良い記録を残せるようこれからも頑張ります。応援よろしくお願いします!

学友会便り

長崎大学医学部学友会広報部

みなさん、こんにちは。学友会広報部です。今回の学友会便りでは、2015年夏に行われた西日本医科学学生総合体育大会及び全日本医科学学生体育大会王座決定戦の結果をお知らせします。

西日本医科学学生総合体育大会 長崎大学 総合順位 7位

	男子	女子
硬式テニス	ベスト8進出	初戦敗退
軟式テニス	3位	二回戦敗退
サッカー	二回戦敗退	—
バスケットボール	二回戦敗退	一回戦敗退
バレーボール	準優勝	ベスト4進出
バドミントン	二回戦敗退	初戦敗退
弓道	23位	8位
卓球	8位	ベスト16進出
ボート	団体 6位 舵手付きフォア 3位	—
ラグビー	初戦敗退	—
水泳	6位	6位
剣道	優勝	ベスト8進出

全日本医科学学生体育大会王座決定戦

	男子	女子
フットサル	決勝リーグ進出	4位

選手の声 (Best8入り 有志の方々)

ボート

4年 尾崎諒史



今年こそはと臨んだ西医体でしたが、またしても優勝にはあと一步及びませんでした。悔しい気持ちもありますが、最高のパフォーマンスを發揮しての3位という結果には満足しています。大会に出場するに当たり、ご支援、ご声援をいただきました皆様に改めて感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

バレー女子

4年 白井さや香



こんにちは。女子バレー部元キャプテンの白井です。女バレーは今までに、西医体で最終日に残ったことがないということで、今年は「難波へ行く(=ベスト4進出)」を目標として掲げて毎日毎日練習に励んできたので、ベスト4止まりではありますが、この結果はとっても嬉しいです!!これからも、歴史をどんどん塗り替えていけるように頑張ります!

秋期精神科セミナー開催

医学科3年 山脇健司

十一月十四日に精神神経科教室主催の秋期精神科セミナーが開催されました。このセミナーは医学生に正しい精神医学の知識を普及すること...

今回のセミナーは、前回のテーマであった「女性」とは打って変わって戦争や、パンデミックなど異常状態におけるメンタルヘルスについて取り上げました。...

人間のみなならずもろくろ野性の世界はあらゆるに満ち溢れています。生物に生来攻撃性が備わっているのなら、実現可能な平和とは、どのような形になるのでしょうか。...

今回の初めに地域包括ケア教育センター助教の松坂雄亮先生の講演では「人間の攻撃性」について、心理検査を通して理解を深める試みがなされてきました。...

「平和」を象徴した事例はないでしょう。今回の学生発表ではどちらも医学部五年の高悠希さんと、桐野祐子さんが、それぞれ「戦争とPTSD」、「被爆者手帳と精神疾患」について取り上げました。...

被爆後、年を経るとともに、昔の知り合いとの再会や被爆者同士が体験談を話し合うことが、人間関係は徐々に再構築されていきました。...

1997年頃から被爆体験者の調査により被爆体験と精神的健康度の関連性が示唆されていきましたが、これを長崎では1999年当時被爆未指定だった地域において精神的な健康状態の調査を行ったところ、...

1997年頃から被爆体験者の調査により被爆体験と精神的健康度の関連性が示唆されていきましたが、これを長崎では1999年当時被爆未指定だった地域において精神的な健康状態の調査を行ったところ、...

PTSDを診断するにあたって、まず必要となってくるのが、外傷的出来事、つまりトラウマ体験の存在です。実際にまたは危うく死ぬ、重傷を負う、性的暴力を受ける出来事に対して、直接体験する、目撃する、あるいは、近親者または親しい友人に起こった心的外傷的出来事を耳にするという、いずれかの形で暴露が必要となつてきます。...

戦後70年がたった今なお、戦争の余韻は色濃く影を落とされており、多くの人々が被爆の後遺症に苦しんでいます。彼等の中で戦争は決して過去の話ではありません。戦争を知らない私たちが、今後医療に携わっていく中でその事を念頭に置き、医療福祉の在り方について考えるのは大切なことかも知れません。...

今日、私たちはさまざまな場面において外傷後ストレス障害(PTSD)という言葉を目にするかと思ひます。PTSDという言葉は今と異なるとは、もともとは、アメリカにおいて第二次世界大戦後の帰還兵に見られた重度ストレス反応である戦争神経症に由来するもので、それが、ベトナム戦争後にベトナム帰還兵症候群が大きな社会問題となつたことをきっかけにしてDSM-IIIにおいて初めてPTSDと概念化されるようになり、Dと概念化されるようになり、2002年の4月の4月に当該地域に対して健康診断が行われることになり、精神不安による健康被害が認められた場合には医療給付が受けられるようになりました。...

今日、私たちはさまざまな場面において外傷後ストレス障害(PTSD)という言葉を目にするかと思ひます。PTSDという言葉は今と異なるとは、もともとは、アメリカにおいて第二次世界大戦後の帰還兵に見られた重度ストレス反応である戦争神経症に由来するもので、それが、ベトナム戦争後にベトナム帰還兵症候群が大きな社会問題となつたことをきっかけにしてDSM-IIIにおいて初めてPTSDと概念化されるようになり、Dと概念化されるようになり、2002年の4月の4月に当該地域に対して健康診断が行われることになり、精神不安による健康被害が認められた場合には医療給付が受けられるようになりました。...

を考へるにあたって、いかにして人間が戦場で戦わされてきたか振り返ってみましょう。いかにして人は戦わされてきたか。兵士が戦場で無となり戦い続けるために、これまでの歴史において、国家はあらゆる角度から、極限状況における人間心理を研究し、人間を戦闘マシンに近づける方法を模索してきました。...

このように殺戮マシンを作り出す訓練方法を確実な戦争遂行のためアメリカ軍は開発していったのです。しかし、このように心を「無」として戦闘を行えるように訓練されたにも関わらず、彼らが従軍したベトナム戦争では、日常生活に復帰できないPTSD患者が大量発生し、その結果、多くの若者が、戦場から帰還したあとも、アルコールやドラッグに溺れ、ホームレス化したり、悪夢にうなされ、社会復帰できず、戦場の恐怖におびえ、突発的な殺人を犯したり、自殺をするようになり、自殺をするようになってきました。...

このように殺戮マシンを作り出す訓練方法を確実な戦争遂行のためアメリカ軍は開発していったのです。しかし、このように心を「無」として戦闘を行えるように訓練されたにも関わらず、彼らが従軍したベトナム戦争では、日常生活に復帰できないPTSD患者が大量発生し、その結果、多くの若者が、戦場から帰還したあとも、アルコールやドラッグに溺れ、ホームレス化したり、悪夢にうなされ、社会復帰できず、戦場の恐怖におびえ、突発的な殺人を犯したり、自殺をするようになり、自殺をするようになってきました。...

このように殺戮マシンを作り出す訓練方法を確実な戦争遂行のためアメリカ軍は開発していったのです。しかし、このように心を「無」として戦闘を行えるように訓練されたにも関わらず、彼らが従軍したベトナム戦争では、日常生活に復帰できないPTSD患者が大量発生し、その結果、多くの若者が、戦場から帰還したあとも、アルコールやドラッグに溺れ、ホームレス化したり、悪夢にうなされ、社会復帰できず、戦場の恐怖におびえ、突発的な殺人を犯したり、自殺をするようになり、自殺をするようになってきました。...

医学生のための九州法医学合同ワークショップ



グループごとに死因や死亡推定時刻などを検討しました。グループは1グループ20名程度で、各大学の学生がバランスよく散らばるように組んでおりました。各グループの部屋を回ってみると、数人が立ち上がって白熱した議論をしているグループあり、リーダー・書記など役割を決めて効率的に進めているグループあり、教科書や自作プリントをひっくり返し合っているグループあり、実際にグループの個性が感じられました。2日目の発表では、同じ症例に対し、病死と判断したグループと他殺と判断したグループがあり、なかなか一筋縄ではいかない良問だったようです。この症例タイズは法医学の授業を終えて4年生以上が対象で、3年生以下の参加者には別会場で法医学の紹介や、長崎大学法医学教室の見学ツアーが行われました。特に、3年生の部屋は盛り上がり、北は北海道から南は沖縄まで、東西南北の100名を超える医学生が長崎に集まっていました。学年も1年生から6年生、大学院生と様々です。著名な教授や先生方も同様に法医学を学ぶ場として全国からいらして、法医学を学ぶ場として全国レベルの会と云えるでしょう。

医学部に入った皆さんにとって「法医学」とはどんな存在でしょうか？昔から法医学をテーマにしたドラマや作品があり、一般にも知られる分野となっていますが、医学生から見ても難解、かつ、シリアスで、近づきがたく、多くの医学生からは「数ある科目のうちの一ひとつ」と位置付けられているかもしれません。

しかし、医師はご遺族の要求があれば、その方の死亡診断書を書かなくてはなりません。あるいは、一人暮らしの部屋の中で亡くなったという人の検案を依頼されることもあるかもしれません。臨床医を目指す医学生にとっても、法医学は臨床にはあまり関係がない……と片付けることができない分野なのです。

「医学生のための九州法医学合同ワークショップ」(以下、ワークショップ)は、法医学という分野にもっと気軽に興味を持ってほしい、という狙いから始まりました。今

回で6回目の開催。文部科学省の支援事業の一つとして、長崎大学・福岡大学・久留米大学の三大学の法医学部法医学教室が共催しています。今回は、2015年11月21日～22日に長崎大学坂本キャンパスで開催されたワークショップの様子をお伝えします。

ワークショップはタイトルこそ「九州合同」と銘打っていますが、北は北海道から南は沖縄まで、東西南北の100名を超える医学生が長崎に集まっていました。学年も1年生から6年生、大学院生と様々です。著名な教授や先生方も同様に法医学を学ぶ場として全国からいらして、法医学を学ぶ場として全国レベルの会と云えるでしょう。

このワークショップの大きな目玉のひとつが、1日目に出席される「症例タイズ」と、それに対する2日目のグループ発表です。今年も例年のごとく、「突然死の症例」と「腐乱死体」の2つの症例について、振り分けられた

グループごとに死因や死亡推定時刻などを検討しました。グループは1グループ20名程度で、各大学の学生がバランスよく散らばるように組んでおりました。各グループの部屋を回ってみると、数人が立ち上がって白熱した議論をしているグループあり、リーダー・書記など役割を決めて効率的に進めているグループあり、教科書や自作プリントをひっくり返し合っているグループあり、実際にグループの個性が感じられました。2日目の発表では、同じ症例に対し、病死と判断したグループと他殺と判断したグループがあり、なかなか一筋縄ではいかない良問だったようです。この症例タイズは法医学の授業を終えて4年生以上が対象で、3年生以下の参加者には別会場で法医学の紹介や、長崎大学法医学教室の見学ツアーが行われました。特に、3年生の部屋は盛り上がり、北は北海道から南は沖縄まで、東西南北の100名を超える医学生が長崎に集まっていました。学年も1年生から6年生、大学院生と様々です。著名な教授や先生方も同様に法医学を学ぶ場として全国からいらして、法医学を学ぶ場として全国レベルの会と云えるでしょう。

CTは今では検視に不可欠なものであるとお話しされ、「検視官のCT中毒」という池松教授の言葉が紹介されていました。事実、CTからの情報は死因判定の正確性向上のみならず、DNAや菌型に次ぐ新たな身元確認方法となっているそうです。

「弁護士」の立場からは飯田直樹法律事務所、飯田直樹先生、「検事」の立場からは長崎地方検察庁の竹山翔梧検事が、それぞれこの間までのご経験と法医学との接点についてお話してくださいました。飯田先生は、被害者遺族が一番知りたいのは「事件がなぜ起こったのか」「いったいどんな事件だったのか」であることと教えてくださいました。もし法医学がなければ、まさに死に口なし裁判は被告に有利になってしまうのです。池松教授が被害者側の証人として出廷し、法医学的に事件の詳細を明らかにした結果、それが事実認定された、という実際の裁判のお話、社会や私たちが一般市民にとつての法医学の意義深さを感じさせてくれました。

一方、法医学は検事の方とも関わりがあります。竹山検事のお言葉「司法解剖は捜査の出発点」だそうです。被疑者だけでなく目撃者を含め、生きて

いる人間は間違

うことがあるし、嘘もつくことができます。しかし、ご遺体・被害者の所見は客観的事実である、ということ。竹山検事はこれを常に念頭に置いて、関係者の証言による先入観を持たず、客観的事実を踏まえて捜査上の判断するよう努めておられるとのことでした。

どの領域も確かに医学に近いのですが、こういった方々に会う機会はないと、この企画は参加者の方からとても好評だったようです。さて最後に、このワークショップの魅力として、「全国の医学生・先生方と知り合いになれること」を挙げたいと思います。私も運営のお手伝いをしつつ、ちゃっかり旭川医大や北里大学、新潟大学の学生さんたち、先生たちと親交を深めてきました。夜の懇親会と二次会は大変な盛り上がりでしたよ(さらに三次会もいくつか開催されたとか)。きちんと真面目なディスカッションもしつつ、垣根のないフランクな交流もたっぷり！こうしたところから社会に貢献できる人や人間関係、環境が生まれてくるような気がしました。

今回僕の留学についてお話させていただいた機会をいただいたので、それについて少しづつとら。

僕は現在、スイスのティチノ州立ロカルノ病理機関というところで、細胞病理診断のエキスパートのFranco F. J.先生のご指導の下、細胞診を主軸とした外来病理診断や分子病理診断について勉強しています。

僕は普段、病院の病理診断学科(いわゆる第二病理)の教室に通っていて、福岡先生を始めいろんな先生方に病理診断だとそれに関わる研究とかについて教えて頂いています。ご存じの方も多々いると思いますが、病理診断科には国内外を問わず様々な大学や病院からいろんな方々が訪問されます。Franco先生もその中の一人だったのです

念ながら寮のようなものがなかったのも、ユース・ホステルを利用しています。金銭的に少し苦しかったので2人用の相部屋を借りていますが、これがなんと大当たりでした。チューリッヒやベルンなどの他の街からだけでなく、ドイツやブラジルなど世界中いろんなところから来た人と、国の話をしたり、隣町に出かけたり、一緒にビールを飲みに行ったり、週末にその人の街に遊びに行ったりと思いのほか楽しかったのです。今はお客さんを独占させてもらっています。そんな出来事のこと寂しいです笑。

曲折や艱難辛苦もありましたが(笑)、無事こちらに留学しております。学部の2-3年でみなさんも習った(そして苦しまされたであろう)あの病理で観察していたのはいわゆる組織病理の標本で、病理診断には他に細胞病理診断、いわゆる細胞診という分野もあるのです。細胞診では体液や血液、腫瘍の一部などを、搔爬や塗抹、注射針での吸引(Fine needle aspiration, FNA)と呼ばれる)で採取して、これに含まれる細胞を組織診と同様に顕微鏡で観察し、病変や疾患の診断を決定します。基本的に切らなくてもいいので患者さんへの負担が

が、先生の外来病理診断のお話に興味を引かれ、以前から勉強しに行きたいと思っていました。そして今回、機会に恵まれ、トビタテ留学プログラムの奨学金を利用して、多少の紆余

すこぶる軽いのですよ。細胞診が活躍する領域は、甲状腺や頸部リンパ節のような体表に近いところや、気管や尿路、子宮頸のような体液の採取が簡単などころです。が、他にも胸腔、腹腔、肺、乳腺、髄液など、針が刺せるところであればほとんど何でも見られるようです。Franco先生もFNAのスペシャリストなのですが、肝臓の腫瘍にも使って穿刺吸引しているときは、さすがに驚きました。こんな感じで、外来病理診断の見学をさせて頂いたり、実際の細胞診の症例の診断に関わらせて頂いたり、過去のレクチャーの標本を見ながら勉強したり、丁度リンパ腫の珍しい症例があったので症例報告の論文を書かせて頂いたりしています。

ここでマニアックな病理の話をしちゃうのもなんなので、もうちょい楽しい方の話をしましょうかね笑。ロカルノでの生活なのですが、残



ホテルのルームメイトと隣の町のアスコナにて来病理診断のお話に興味を引かれ、以前から勉強しに行きたいと思っていました。そして今回、機会に恵まれ、トビタテ留学プログラムの奨学金を利用して、多少の紆余



すこぶる軽いのですよ。細胞診が活躍する領域は、甲状腺や頸部リンパ節のような体表に近いところや、気管や尿路、子宮頸のような体液の採取が簡単などころです。が、他にも胸腔、腹腔、肺、乳腺、髄液など、針が刺せるところであればほとんど何でも見られるようです。Franco先生もFNAのスペシャリストなのですが、肝臓の腫瘍にも使って穿刺吸引しているときは、さすがに驚きました。こんな感じで、外来病理診断の見学をさせて頂いたり、実際の細胞診の症例の診断に関わらせて頂いたり、過去のレクチャーの標本を見ながら勉強したり、丁度リンパ腫の珍しい症例があったので症例報告の論文を書かせて頂いたりしています。



「行政」の立場からは、東京都福祉保健局の小竹桃子先生が、東京都における死因究明制度についてお話しされました。東京都には監察医制度があります。終戦後、特に詳

「行政」の立場からは、東京都福祉保健局の小竹桃子先生が、東京都における死因究明制度についてお話しされました。東京都には監察医制度があります。終戦後、特に詳

「行政」の立場からは、東京都福祉保健局の小竹桃子先生が、東京都における死因究明制度についてお話しされました。東京都には監察医制度があります。終戦後、特に詳



Madonna del Sassoとロカルノの街並み

留学紹介

こんにちは。医学科4年の吉川と申します。今回僕の留学についてお話させていただいた機会をいただいたので、それについて少しづつとら。

僕は現在、スイスのティチノ州立ロカルノ病理機関というところで、細胞病理診断のエキスパートのFranco F. J.先生のご指導の下、細胞診を主軸とした外来病理診断や分子病理診断について勉強しています。

僕は普段、病院の病理診断学科(いわゆる第二病理)の教室に通っていて、福岡先生を始めいろんな先生方に病理診断だとそれに関わる研究とかについて教えて頂いています。ご存じの方も多々いると思いますが、病理診断科には国内外を問わず様々な大学や病院からいろんな方々が訪問されます。Franco先生もその中の一人だったのです

念ながら寮のようなものがなかったのも、ユース・ホステルを利用しています。金銭的に少し苦しかったので2人用の相部屋を借りていますが、これがなんと大当たりでした。チューリッヒやベルンなどの他の街からだけでなく、ドイツやブラジルなど世界中いろんなところから来た人と、国の話をしたり、隣町に出かけたり、一緒にビールを飲みに行ったり、週末にその人の街に遊びに行ったりと思いのほか楽しかったのです。今はお客さんを独占させてもらっています。そんな出来事のこと寂しいです笑。

冬の長崎特集

こんにちは！今回も、前々回に引き続き長崎のおすすめスポットのコーナーです♡
今冬は暖冬と言われていますが、やはり寒くなりましたね。寒い冬に街ゆくイルミネーションを見ると暖かい気持ちになりますね❄️今回はキラキラした冬の長崎を紹介していきたいと思います (*^^*)

☆グラバー園・水辺の森公園

長崎で有名な観光地、グラバー園、長崎水辺の森公園周辺がイルミネーションで彩られます。
異国情緒溢れる伝統的建造物群のライトアップと共に、今年7月に世界遺産に決定した、「旧グラバー住宅」から世界三大夜景を一望できます！路面電車ですぐに行けるところなので、ぜひ気軽に足を運んでみてはいかがでしょうか。



それではみなさん、イベント沢山の冬を楽しみ、お身体に気をつけてお過ごしください (*^^*)

☆長崎ランタンフェスティバル2016

中国の旧正月を祝う行事「春節祭」を起源とする、長崎の冬の一大風物詩「長崎ランタンフェスティバル」です。長崎新地中華街、湊公園、中央公園、眼鏡橋周辺、浜市・観光通りアーケードなど長崎市内の中心部に約15,000個にも及ぶランタン(中国提灯)や、大型オブジェが幻想的に飾られます。毎年、期間中は毎日各会場で、龍踊り、中国雑技、二胡演奏など、中国色豊かなイベントも行われています。今年度は、2月8日(月)～22日(月)に開催されるようです。他県からも沢山見に来られるお祭りなので、長崎にいる間にぜひ見に行かれてください (^^)



☆ハウステンボス

そして、長崎のテーマパークといえばここですね。光の王国、ハウステンボスです！昼は、オランダ風の街並みや四季折々の花を、夜は、世界最大級のイルミネーションを、といった昼夜で違った楽しみ方ができるところが魅力です。最近では、日本一の高さ66mから流れ落ちる大迫力の「光の滝」や、光の海へダイブする「光のバンジー ジャンプ」、「光と噴水の運河」といった新しいスポットが登場したそうです。ほかにも「光の宮殿」や「3Dプロジェクションマッピング」など見どころが沢山あります！



ふわふわしっとり♡かんたんシフォンケーキ ~ココアとナッツのハーモニー~



○今回のお料理コーナーはバレンタイン編♡
みなさんの思いが、大切な人に伝わりますように♡

- 材料(ホール1個分)
ホットケーキミックス(100g)、玉子(1個)、砂糖(30g)、サラダ油(50cc)、ココア粉(10g)、生クルミ(gはお好みで)
- 仕上げ 粉砂糖(適量)
- 道具 ケーキ型、オープンシート

- 手順(作業時間 約15分)
- ①まず、オープンシートを180度で予熱しておきましょう。
- ②予熱が完了する間に、作業を行いましょう♪ケーキ型にオープンシートを敷きます。
- ③ボウルに卵を入れて割りほぐします。
- ④③に残りの材料を加えます。(生クルミは包丁ですこし砕いて使しましょう♪)
- ⑤生地がしっとりしてきたら、②で準備しておいた型に流し込みます。
- ⑥オープンの予熱が完了した後、180度で30分焼きます。
- ⑦焼きあがったケーキを型から外し、熱が冷めるまで待ちます。
- ⑧粉砂糖を上から散らして、出来上がり♡(イメージは粉雪♡)

はじめてのレシピシリーズ

♡一人暮らしのお料理♡

「日々の感謝を伝えよう♡♡」
みなさん、新年あけましておめでとうござい
ます！今年も本コーナーを、どうぞよろしくお
願いいたします♪
さてさて、次にきたる一大イベントは、そう
♡ハッピーバレンタイン♡いつもお世話になっ
ているお友達に、はたまた、大切なあの人に、
感謝の気持ちをこめて・・・。
ということ、今回のお料理コーナーはバレ
ンタイン編！(^^*)
真心をたたくさんこめて、いざっ！

編集後記

今回は「長崎大学医学部生、こんなこともやっています!!」を担当しました、熊谷です。自分で自分にインタビューをするという大胆(?)な形式で自身の活動について掲載させてもらいました。

読者の皆さんも、みんなに知ってもらいたいニュースがありましたら、是非、私たち新聞部に声をかけて、どんどん「ぐびろが新聞」を活用してください♡ (熊谷知香)

今回は定期演奏会の記事と留学便りを担当しました！僕自身、今年も長崎のいろんな場所で演奏させていただきました、振り返るととても充実した1年間でした(室内合奏団、演奏依頼どしどし募集中です！今回の新聞もたくさんの方の見所がありますので、楽しく読んでいただけたらと思います(松本字)

2015年は新聞部も新体制となりました！フレッシュなメンバーで紙面もどんどん変わっています。わたしの新聞部生活は残り少ないですが、まだまだいろんな記事を書いてみたいと思っています！ (市川宏美)

CBTも無事に終わり、年明けからは新カリキュラムで早まったポリクリが始まります。2016年も去年以上に充実した1年にしたいです！ (野本和宏)

長大祭にテストに大忙しの11、12月でした。今は色々落ち着いてこたつでぬくぬくしております♡2016年も学生の活動紹介、おすすめスポットの記事を活発にしていきたいと思っております！来年もよろしくお願ひします。 (萩野恵梨)

3年生は年内にテストも終わり、新年からはリサーチセミナーです。テスト期間低下していたQOLをしっかり取り戻していきたいところです。次回の精神科セミナーは、来年度です。しばらく先になりますが、また告知をしますので興味があったら是非参加してください！ (山本侑季)

クリスマスは試験と共に過ぎました、和田です♡「笑」毎日寒い日が続きますね！今日のお料理コーナーはバレンタイン版♡甘いお菓子で、元気いっぱい頑張ってくださいませ♡ (和田澄華)

今回は長大祭を担当させてもらいました。今年2015年はいろいろなことがありました。いいことも、わるいことも笑。
2016年はいいいことがたくさんあるよう日々頑張っていくことと思ひます。よろしくお願ひします！ (松島俊樹)